高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　稲津　宏

クラブ予算決まらず
行き詰る活動
初の公開審議
新たな問題点が…

四七年度自治会予算はまだ未決定。自治会クラブ予算を決めるにあたって、今年は、初めて公開審議という形がもたれたが、活動状況が不明のまま審議となり、多くの問題を残して、形だけのもののような形で終わった。多くの問題をかかえた自治会クラブ予算決定は、来学期にもちこされた。

例年ならばもうすでに決定しているはずの自治会予算。しかし、四七年度自治会予算はいまだ未決定。そのため各クラブの予算も公開審議は行なわれたもののまだ決っていない。

今年度クラブ予算は、四六年度予算の決算もできないうちに公開審議という形で行なわれた。公開審議には各クラブ代表が一名ずつ参加して連日遅くまで審議をくり広げた。しかし、今年度の予算決定に関して公開審議をもったかいがないといっていいだろう。第一予算を決めるにあたってすべてを公開して行なったわけではない。というのは、各クラブが自治会執行部に予算請求書を提出した際、前年度よりも金額の多いクラブはその場で個々に話し合い、前年度の金額近くまで、できるかぎりひき下げてから公開審議にかけたのだ。ある先生方の中には「そのようにしておいたほうがらくだろう」と言われていたらしい。予算というものは楽に決めるものであろうか。一年間のクラブ活動をささえる予算なのだから、もっとよく考えないといけないのではないかまた前年度の額を基準にするということについても納得がいかないクラブの活動状況を調べずに前年度並というのは大変けしからんことだ。

今年初めてこころみられた公開審議。初めてだからしかたないのかもしれないがもう少し考えてほしかった。それは、せめて公開審議をするまでに各クラブの活動状況を調べてほしかった。限られた金額を各クラブに割り当てる際に熱心にクラブ活動を行なっているクラブにはそれ相当の金額をあげたいものだ。昨年の予算は単に昨年の予算であって今年度予算の基準ではないのだ。

また、クラブの代表者の出席が悪かった。これは、審議の日数が長かったために、クラブによっては活動に支障がおきたために、出席できなかったクラブもあったようなので、もう少し運営について考えてもらいたい。ひどいときには審議には顔をみせてはいるがすみのほうでせっせと審議にまったく関係ない個人的なことを行なっていた代表者がいた。このような態度についてもきびしく注意すべきであろう。

最後に各クラブ同志が今以上にお互いのクラブを知り合わないといけないのではないだろうか。お互いに知り合わないために、運動クラブから見れば文化クラブは予算をとりすぎている。また、文化クラブからみれば運動クラブは予算をとりすぎているということになるのだ。文化クラブも運動クラブもクラブ活動を行なっていくためにはそれ相当の金額が必要なのだ。

そろそろクラブ活動に支障をきたしてきたクラブが出てきた。早く四十七年度予算を決定してほしい。

詩

夏の日の
夏の日のまっぴるま
しんしんと蟬の啼く
松の疎林のほそ路に
かの乙女子の指させし
鬼あざみ

色あざやかにたけ高き
信濃路ふかき山あざみ
よき花よ
その花言葉
独立自尊
とりわきてわが好む花
かくいひてかの乙女子は
帽軽き額に汗し

父母のもとにいそぐと
下り路の歩をいそぎぬ
一日の旅のみちづれ
こゑ高くゑまひし君や
かの君や今はたたれが妻ならむ
おにあざみそのはなみれば
しなのぢのやまじのともの
おもほゆるかな　三好達治

部説

人間は弱いものである何かにすがり、何かを求めていかなければ生きて行くことは、不可能に近い。

さて、今我々は、この高校生活の中に何を求めているのだろうか。ただ単に与えられたものを機械的に考えもなしに処理しているだけではないだろうか。何の考えもなしにただ「ヤレ！」と言われたからやるというのでは、そこに何も見つけることはできない。そんなことでは、無論、充実などもありえない。

又、何をやればいいのか、何のために生きているのかというようなことを自分自身でつかめていなければ、しいては自殺という逃避手段にまでつながると思う。

高校生活が、おもしろくないということは、イコール、人生がおもしろくないとはならないが、今の我々は、一日の大半を高校という集団の中で過ごしている。何のために高校へくるのか。何のために勉強するのか、などという疑問が出てあたり前だと思う。成長して会社にはいっても物理や化学は、いらない。まして家庭の主婦が、市場へ買い物に行くのに、サイン・コサインなんてものは、無用だ。

しかし、いろいろな物を一般教養として身につけ、そこで思考し、一つの物に対しても数学的な角度や物理的な角度で考えるということは、人間の思考の範囲をより大きくする。

以上いろいろと述べた

今の生活に疑問を

が、ようするに何故我々は、こうしなければならないんだということを忘れないようにすればよいのだ。本当に与えられたものをやるだけの機械になってしまっては、いけない。今の自分への疑問を放っておくことなしに今、考えてみようではないか。又、人生に対する疑問、未来への疑問もこの余裕のある青年期に考えてはどうであろうか。今の生活に大きな疑問を感じているならばそれから逃避してはいけない。現在のだらけた状態におぼれてはいけない。一生涯、答のでない疑問もあるだろう。しかし、それを考えることによってまた何かもう一つの新しい考えが生まれてくるにちがいない。

現状をしかと見つめ、考えてこそ、そこに充実が生じてくるのではないだろうか。

パスカル曰く〝人間は考える葦である〟

▽　▽　▽

不満言わずは
腹ふくるる技なり

私達は学校生活において、いろいろ不満を持っている。教師への不満、友達への不満、授業のやり方、内容に対する不満、また、机いす、黒板等物質へと様々であるみんながみんなこの不満を満たそうとしたら、学校は大混乱になるはずである。ところが、そこには人間の理性と言うものがあって、それがじゃま(?)をするのか、大混乱は避けられている。

しかし、あまり理性が働きすぎるのも考えものである。「何でこんなことやらなあかんネン」「〇〇先生の言うことおかしいワ」と思いつつ声にはならない。腹の立つこと（不満）は多くても心の中でぶつかり合って、粉々に砕けて消えて行くのを待つだけ。そんな場合が多いのではないだろうか。

先生が恐いから、言ったって無駄だから、世間一般にそれが正しいこととされているから。自分では納得できないのに、それでいいんだ、それでいいんだと無理に押しつけて、そこに何が残るだろうか。何も残らないのではないか。ただモヤモヤしたものがあるだけそして、いつも欲求不満みたいな顔をして、「あ～あ、おもしろくないナ～」とボヤいている。

実際こんなのは本当の理性ではない。自分でおかしい、あるいは相手が間違っていると思ったときは、正々堂々と声を大にして言えばいいのではないか。もっと、不満を表に出してはどうだろう。黙って内に秘めているのなんて、今時はやらない。

別に理性を全部取って、本性を向き出しにしろと言うのではない自分が正しいと思うことに対しての不満なら、変な理性を取ってしまえと言うのである。そして、そこで誰かに助言を与えられ、自分が間違っていると分ったなら、それでいいのではないか。

例えば、どうして俺が掃除をしないといけないのかと疑問を感じ不満に思ったら、言えばいい。友達にでも、親にでも、先生にでもそして、もし自分が間違っていると分って、納得できたならそれでいいではないか。不満を我慢して押し込めておくよりはいいと思われる。欲求不満のような顔をしてブツブツ言っているよりはずっとましであるはずだ。

では、もし俺が正しいと誰もが認めてくれた時、あるいはいくら反対の意見を言われても、納得できない時はどうすればいいか。もちろん自分が正しいと思う方向に進めばよい。多数の意見が必ずしも正しいとは限らないし、我々の生活の中で、本当にどちらが正しいのか、善悪の判断のつけようのないものが多い。また、人によって、時代によって価値感も変わるから、我々が日頃正しいと思っていることでもそれが正しいかどうかは分らないものだ。（もちろん分っているものもある）

自分の正しいと思う方向に行動してみよう。そこで初めて間違っていると気付いたって、それでいいじゃないか。欲求不満よりましだ。いろんなことを精一杯考えて自分の正しいと思う方向に精一杯行動しよう。あやまちなんか恐れずに、人の目なんか気にせずに。

それでこそ青春－若さだ。

昔から、「言はずは腹ふくるる技なり」と兼好法師も言っているように、自分の胸に話っていることを後生大事にためておいたって腹がふくれるだけである。それで充実感が味わえるならまだしも、そんな人はいないだろう。不満の場合はため込むより、吐き出す方がよいのである。しかし、全く他人のことを忘れて、自己中心に走りすぎないように。

体育館建設事業始まる
＜事務室より＞

体育館の建設計画についてすでにご承知のとおり、本年十一月をもって本校の創立五十周年を迎えることになりました。そこでこの記念すべき年の記念事業の一環として、現在の第三運動場の敷地内に、鉄筋コンクリート二階建の体育館兼講堂を新設することになりました。以下その計画のあらましについておしらせします。

1、プール南側の道路廃道に伴う新道路敷設工事
(1)設計完成予定
昭和四七年七月下旬
(2)着工予定
昭和四七年八月中旬
(8)竣工予定
昭和四七年十一月中旬

2、体育館兼講堂建設工事
(1)地質検査
昭和四七年六月下旬
(2)設計完成予定
昭和四七年十月下旬
(3)着工予定
昭和四七年十一月初旬
(4)竣工予定
昭和四八年六月下旬

以上の計画に基づいて現在着々と進行しておりますので細部については次の機会におしらせします。

自治会役員選挙
1、3年立候補者なし

昭和四十七年度前期自治会役員選挙が、六月三十日（金）の六時限HR時に行なわれた

今回の選挙は、六月二十三日に再々告示のの末行なわれたものだが立候補者は少なく、会長、副会長書記、会計の各ポストに一人ずつ計四人で信任投票になった。

その結果、会長－坂本正孝（二－三）、副会長－平沢保人（二－五）、書記－中村恵司（二－八）会計－田部井誠（二－三）（敬称略）がそれぞれ信任された。

今回の選挙は、告示、再告示、再々告示の経過をへて行なわれたものであるにもかかわらず、立候補者はわずか四名であった。それに二学年の男子ばかりである。各学年の代表がいない。これでは各学年の声が反映されにくい。こういう自治会選挙の実態をどう解釈するか。

中には「自治会なんて何ができるんだ。この学校では全然影がうすいじゃないか」という声の人がいる。自治会は、予算等事務的な諸事に手をとられている時が多い立候補時の公約の実現されていないのをみると、「自治会なんか…」と思う人もいるだろうが、それは本当に「自治会」を自分のものとして考えていない現われではないだろうか。自治会がなくなったら、クラブ活動、文化祭、体育祭等すべての自治活動が生徒の手からなくなる事を考えてほしい。

針の穴

明日からいよいよ夏休み。旅に出る人、クラブに汗を流す人、いろいろあるでしょうが、勉強から逃げていると、二学期に入ると、早、頭に秋風がサワサワなんていうことになりますよ。くれぐれも気をつけて。▼ところで先月は、二度あることは三度あるということわざ通り、航空機の大惨事がたて続けにありましたね。あれだけの大事故があっても、やっぱり飛行機に乗らざるをえないという人もいます。そういう人は自分の乗った飛行機は大じょうぶだろうと思って乗っているのでしょうか。交通事故にしても、自分は大じょうぶだと変な確信をもっているうちは、危険は残っています。▼又同じ先月初めに、ストックホルムで国連人間環境会議が開かれました。▼考えてもぞっとします。春が来ても、咲く花はなく、鳴く鳥もいない、すべてのものが沈黙したような世界。魚も野菜も安心して食べられない現代。食欲だけがとりえの針子は身も細る思いがします。▼今年の家庭クラブ総会は非常に活発でしたね。役員と会員との間での多くの意見のやりとり出席率の高低はクラスによって違うみたいだけれど、どういうことですか。「あなた行かない－私も行かない」じゃ話にもならないですよ。▼一年は御岳で合宿行事がありますね。去年は全員参加だったけれど、今年は合宿、研修旅行に参加する人以外が対象だそうですね。▼光化学スモッグ予報（注意報）のよく出ること。安心して戸外で運動もできない状態…。▼教育実習がありました。阿倍高出身の先輩方が多かったですね。やはり声が小さい方がおられたようでした。阿倍高はやりにくかったかな。え、とても勉強になっただろうと思うって。さては、あなたも質問ぜめにした一人ですね。▼一年は水泳講習がありましたね。どうですか、キビシイ（？）練習のかいがありましたか。色だけ黒くなって、泳ぐのはまあまあ、大して効果なしじゃないでしょうね▼ともかく九月になって、今年の夏休みは何も得ることはなかったなんてことにはならないようにね

――針子――

勉強が目的？

我々は何をしに学校へ来ているのか？毎日が単調な授業の繰り返し、サラリーマンが黙々と会社へ行くように、我々もまた月曜日から土曜日まで黙々と通う。そこに一体自分は何をしに学校へ来ているのか？という素朴な疑問が心におこることはないだろうか。高校に入った当時は一生懸命勉強しようという気があっても、一カ月、二カ月……たつと、それが失われるか、あるいは、目的が変わってしまっている人が多いのではないだろうか。ただそこに阿倍高があるから、それだけで我々の一日の三分の一あるいはもっと多くの時間を費やすのは、おしい。時間の無駄ではないだろうか。我々にとって一度しかない青春、十五～十七、八才の一番若々しい時を過ごす高校生活をもう一度見つめ直してみよう。

☆自分は何をするために学校へ来ているのか？

①勉強	二七％
②人格形成	二三％
③友人を持つため	二二％
④なんとなく	一七％
⑤その他	一二％

何をするため学校へ来ているかでは、学校生活の中で正味五時間を過ごす勉強がやはり一番である。同じ二〇％台で人格形成、友人を持つためが続いている。その他には、「大学へ行くため」という、受験体制の一部分を覗かせるものや、人間関係に関して、「他人をより深く見つめる」というのがあった。また、「来なければならないから」「暇つぶし」「家のため」のように、高校生活にこれといった目的のないような意見や、「何のために来ているのか分らない」という意見があったことは見のがせない。中には「あの人に会うため」「女」という回答もあり、青春―異性への関心―というものを感じる面もある。

④その他で出ていた「なんとなく」「わからない」「暇つぶし」を総合すると、高校生活に目的のない人は全体の約五分の一になる。つまり、残りの五分の四は、学校へ来るからには何らかの目的を持っており、その中で二分の一が勉強を目的としているのではあるが、授業にも活気が失われがちなのが現状である。

☆何か打ち込むものがあるか？

①ある	五七％
②ない	三六％
わからない	七％

あると答えた人で☆それは何か？

①勉強	九％
②趣味	四三％
③クラブ	四二％
④その他	六％

半数以上が打ち込むものを持っていて、その内分けは右のようなものである。趣味、クラブがそれぞれ五分の二の占めている。勉強はわずか十分の一であるのは、前の質問―何をするために学校へ来ているのかーで勉強が一位であるのと比べるとおもしろい。

☆高校生活に対して不満があるか

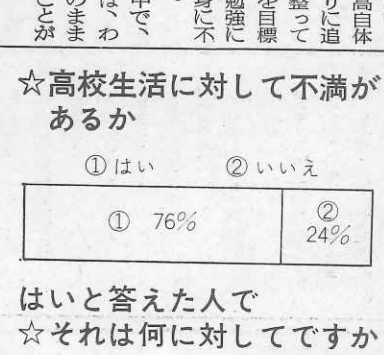
表から分るように五分の四が高校生活に不満を持っている。その他で詳しく出ていた例としては「阿倍野高校は完全に生徒を押さえつけて、自由を認めていない」「許可制に不満」という阿倍高自体に対するもの。「宿題ばかりに追われているし、受験体制が整っていないのに、先生方は受験を目標にしているようだ」という勉強に対するもの。また「自分自身に不満」というものも多かった。

不満があると答えた人の中で、不満解消に何かしている人は、わずか四分の一で、残りはそのまま不満をほったらかしてあることがわかる。

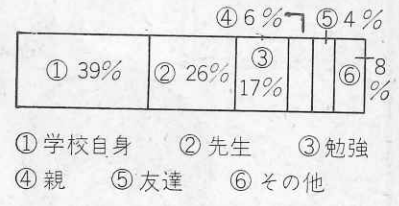
わずかな不満解消の例としても「友達とウサばらしをする」「クラブに打ち込んで消してしまう」「悪口をいう」のように消極的なものが多いようだ。

（一面に関連記事）

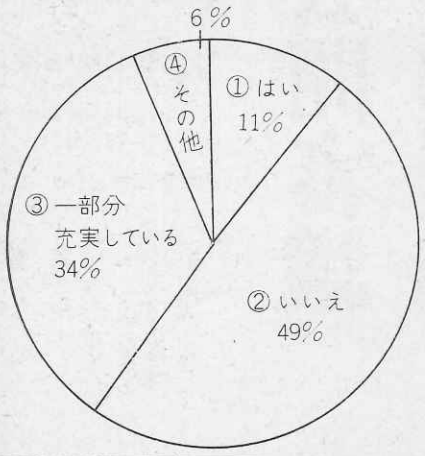
☆高校生活に対して不満があるか



はいと答えた人で☆それは何に対してですか



☆高校生活が充実しているか？



八割が充実していない

☆高校生活は充実しているか？（左図参照）

充実していないと答えた人は五〇％ちかくあり、一部分充実しているの三四％を合わせると約五分の四。それだけの人が、学校生活に充実を感じていないわけである。

まず、充実していない方の具体例をあげると「何かに追い詰められたような形」「今の受験体制におもしろくない」ということであった。具体例は数少なかったが、今の高校生活というものに対して何かしらん疑問を感じている風である。「受験体制」「追い詰められる」という言葉で象徴されるように、高校の予備校化に対する疑惑を感じながらも、どうすることのできないまろっこさ、友人がその中にはまり込んで行く孤独感そんな高校生の一断面を見せつけられるようである。そして、「高校生活において、充実していない面が一面でもある」が八〇％という数字がこのようなことを端的に表わしている。

では、次にわずか十分の一ではあるが充実していると答えた人の具体例を見てみよう。勉強（成績）―恋愛―趣味―クラブ―学習―友人関係―毎日の緊迫した授業―自習時間―という具合である。中でもクラブという回答はいくつか見られた。クラブに関しては六時間の授業に充実を感じられない分をクラブで補うとも受けとられる。結局は逃避的にならざるを得ないということかもしれない。また、「受験体制のため充実を感じない」と裏はらに、学習、授業に充実を感じている人もあるという。人様々である。

楽しく自由な高校生活を

☆学校に来て一番楽しい時間はいつか？

①授業中	七％
②休み時間	二〇％
③放課後	九％
④自習時間	二六％
⑤クラブをしている時	一二％
⑥楽しくない	一七％
⑦その他	九％

☆入学（新学期）当時「こんな高校生活をしたい。」と言う目標があったか？

①あった	六六％
②なかった	三四％

☆それは今も持ち続けているか？

①持ち続けている	六一％
②いない	三九％

この結果から、約半数以上の人が何かの目標を持っていたようだが、具体的な意見で一番多かったのが『楽しく自由な高校生活』というのであった。これらの中にはテレビの青春ドラマのような楽しさ、あるいは男女交際による楽しさ、希望にみちあふれる生活などが多かったが、中には一生懸命勉強することによる楽しさというものもあった。次に多かったのが『勉強一筋』という意見、毎日予習復習をしてテストで一番をとり、えらい人になるという意見である。

その次は『充実した生活』という意見、何事にも全力でぶつかり意義のあるものにしたいということだ。またクラブと勉強の両立、クラブにすべてをかけるという意見もあったが、変わった意見に『阿倍高を時代おくれでない自由で今よりましな学校にしようと思ったが、無理なことがハッキリしたもう手のつけようがない』ということだ。もしかすると、他にもこういう意見が多いのでは……。

最後に持ち続けている人が大半である。ということは、現在実際に自分自身の高校生活がされているか、まだ高校生活に失望しないで期待している人が多いようだ。

△　△　△

充実した生活を

今回この特集を行なうために少数ではあるがアンケート調査を行なった。それについての結果は前記のようになった。この結果から言えることを一口で言いあらわすと「今以上に高校生活を考えなければならない」ということになる。これは、生徒だけではなく、教師も生徒と一緒になって考えなければいけないと思う。

これは、高校生活に不満が有ると答えた者が約八割、その約八割のうちの八割近くが学校や教師に対して不満が有ると答えているからだ。友達関係がうまくいかないことに対して不満が有るのならば生徒のみが話し合ってもうまくいくだろうが、学校自体や教師に対してとなるとどうしても教師をぬいては考えられない。そのために教師と生徒が共に考えていけるような話し合いを持ってもらいたい。話し合いを持てばものすごく良い結果が得られると思う。それは、話し合うことによって学校自体や教師への不満が少しづつでも少くなくなっていく。教師と生徒の断絶もこれによってなくなっていけば、半数の者が充実していないと思っている高校生活が次第に充実していき、はっきりとした目的もなく学校に来ていた者が少なくなっていくと思う。

それとは別に、生徒一人一人もよく自分のことについて考えないといけないと思う。今以上に「高校生活とはどのようなものであるか」ということについて一人一人が考えてもらいたい。あくまでも高校生活は団体生活であって、単なる個人生活とはまったく違う。

また、いろいろな不満がおこるということはすべて他の者に原因があるということをすてさって、もう一度一人一人がよく考えてもらいたい。

教師を含めて我々は阿倍野高等学校という大きな団体の一員であって、一人一人が別々に生活を行なっているのではない。だから、一人一人が全体のことを考えて生活をしなければならない。絶対にこの阿倍野高等学校という大きな団体の輪からはみ出していってはいけないのだ。

※各学年二クラスずつアンケート調査を行ない回収率は50％です。

より深く考えよう

八割が充実していない

楽しく自由な高校生活を

続 新任紹介

先号に新任紹介を掲載いたしましたが、引き続き事務関係の方々を紹介します。

①名前　②生年月日　③出身校　④趣味　⑤性格　⑥阿倍野高校へ来る前の印象　⑦阿倍野高校に来てからの印象　⑧高校時代に何になりたかったか（理由）⑨阿倍高生に何を望んでいるか。

①吉村茂久
②大正十一年六月六日
③大阪市立都島第二工業学校
④囲碁
⑤少々わがまま？
⑥永く住高に勤めていた関係で兄弟校としての阿倍野にはことのほかなつかしい思い出をもっていたが、引き続き事務関係の方々を紹介します。
⑦非常に気持ちのよい働きやすい学校で生徒の皆さんはクラブと学習活動を立派に両立していて心強い。
⑧出身地の田舎で先生をするつもりで地歌山師範を受験したが見事に不合格。やはり小学校の先生になりたかった。子供が好きなのと田舎では経済的に安定しているから。

①富岡弘
②昭和四年一月十四日
③布施工業高校
④旅、散歩
⑤優柔不断
⑥前任校（泉尾高校＝旧制高女）と似かよっているのではなかろうかと思っていました。
⑦転任後未だ日が浅いので何とも申せませんが前記の印象は、ほぼ間違っていなかったように思います。ずばり言って旧制高女のよりよき伝統でしょうか。
⑧小学校六年生のとき漠然とエンジニアになるつもりでした。布施工高の前身航空工業に入学の年、太平洋戦争勃発、戦局の推移と時代の要請も大きな原因ですが、当時の夢多き少年は果しなき大空に限りない魅力を感じていたのですやがて終戦、混沌とした世相に自己の夢も希望も一瞬のうちに消え失せてしまいました。意気消沈している自分を恩師（小学校担任）が、再出発するよう激励して下さり学校へ勤務するようになりました。
⑨自身の進路を、しっかりと見定め邁進して下さい。また、常に公共物愛護の精神を忘れず、校舎の破損防止及び施設設備の維持管理に、全校生徒諸君の協力を強く望んでいる次第です。
⑨失礼かも知れないが素直で芯の強い精神を養なってほしい。

校内食堂　みのわ

※　放課後は5時までです。
※　自習時間は利用できません。
※　セルフ・サービスですから
あとかたずけはキチンと。

家庭クラブ総会
例年になく盛り上がる

開催前からクラブ費の徴集を拒否するクラスなどがあり波乱が予想された家庭クラブ総会だが、その予想通り多くの意見がかわされた。今回は、例年のマンネリ化された総会ではなく、会員と役員との断絶が、かなりせばまったように思う。しかし、今後も大きな問題をかかえ、これからの活動が注目されているが、役員だけの家庭クラブでないということを自覚してこの事を考えてほしい。

■去る六月十日家庭クラブ総会が開かれた。今回は、例年になく質疑応答がさかんにかわされた。

そのため一時から一時間の予定だったのが、二時四十五分まで行なわれた。

まず始めは、会長の神宮司由紀さんの開会の辞。続いて顧問の小林先生のことば。それに続いて数年前、テレビで放映された16ミリフィルムを見た。しかし、マイクの雑音が大きすぎ、聞こうとしても聞きとれる状態ではなかった。そのため場内も騒がしかった。なんのためにあんなフィルムを放映したのか意図もはっきりしていなかった。家庭クラブを知ってもらおうという意図ならば完全な失敗であった。次に家庭クラブの歌その一を歌う。続いて書記報告。家庭クラブ委員会で決定されたことの報告で、当面の目標としてガリ刷りの家庭クラブの新聞の発行校内に二つの投書箱の設置、それに六月二十四日のクッキングセミナーの開催等……。今までの家庭クラブにない新しい試みであったしかし、有言不実行にならないようにしてほしいものだ。

ここまでは例年のような報告だけの総会であったが、次の会計報告にはいるとそれが、一転した。まず会計より昭和四十六年十二月から四十七年五月三十一日までの会計報告がなされた。それが終わるや否や壇上の会計に多くの質問があびせられた。その内容は詳細にまでいたった。新聞部としての今度の会計予算の疑問点をあげるとまず第一に残金が支出より千五百円も上回っているということだ

それに前年度繰越金が四万五百二円もある。残金があるというのならまだしも、これはいったいどういうことなのだろうか。応答によるとこれから文化祭などもあり支出が多くなるということだが、文化祭はバザーなどで少なからず収入はあるはずだ。それに対して一ケ月二十円のクラブ費は高いという声もあった。

次に母の日の一日前に販売されたカーネーションに関しても意見がかわされた。一本三十五円で購入したカーネーション百本を一本二十円で販売した。この主旨として家庭クラブでは、母の日に自分のお母さんにカーネーションを贈るということは良いことであるというので行なった。しかし、事前にアンケートなどをとって会員に意見を促すなどの方法をとるべきであった。又、販売するにあたってのPRもなかった。時間がなかったというのは言いわけにすぎず無計画さが暴露されたようだ。他の物品に関しても詳細に質問されたが、大きな点としてはこの二点をあげた。そして、最後のしめくくりとして副会長の蒲田千枝さんの閉会の辞があった。ここで今回の総会を振りかえってみると、まず大きな収穫として役員と会員との形式的ではあるが話し合いがなされたということ。善かれ悪しかれただ役員は報告だけをし、会員はそれを聞くだけであった前会の総会よりは進歩したはずだ。しかし、内容はお粗末であり、会計予算などは八万円ほどの金を扱いながら、その原案となるものはできていなかった。

そうしてもう一つの今後の大きな課題というか根本的な問題である「家庭クラブ」とはいったい何であるか。ということである。

一年生には、入った当初、家庭クラブの説明会のようなものが催されたが、このクラブの主旨は徹底されていないようだ。総会でも役員が、会員から問われると先生に聞いている光景も見られた。いったい家庭クラブとはどういう組織なのだろうか。本当に知っている者が果して何人いるだろうか家庭クラブに参加して活動しようにもいったい本体の家庭クラブがどんなものであるかわからなければ話にならない。今後もっと話し合いの場をもち、家庭クラブというものの存在を我々自らの手で位置づけていくべきではないか。

それには、会員全員が家庭クラブから逃避しないことだ。つまり総会を無断で欠席したり、総会に出席しても役員の話を聞かなかったり、それでは、家庭クラブを批判する資格はない。今こそ我々家庭クラブ員全員考えなければならない時ではないだろうか。

エッセイ

見知らぬどこかへ

「旅」それは私にとって最もロマンチックでかつ人間味あふれる冒険なのであります。私はただ旅に出る、見知らぬ土地を歩くそんな事が好きでたまらないのです。ある時は北陸の深雪の町へと又ある時は南国の太陽の下へとトコトコと出かけてゆくのです。少しばかりのお金をポケットに押し込み地図と時刻表とねぶくろときがえ着とをバッグにつめ込む。そして列車へと飛び乗るのであります。

「どこか知らない所へ行きたい」と思うきっかけは色々とあるのですが、一たん町を離れてしまえば悲しい理由であっても楽しい理由であってもその訳はどうでもよくなってしまうのです。ですからあなたも、失恋した時、自分がわからなくなった時、日本をみつけたいと思った時、勉強が手につかない時、不毛の現代にいや気がさした時、そんな時に考えてほしいのです。その時が旅に出る絶好のチャンスだという事を。又、何の訳もなくどこかへ行きたくなった、それだって十分な理由だと思います

ここで一言いっておきたいのは私にとって「旅」と「旅行」とは大きく違う事です。前者は未知の世界への挑戦であり、後者は交通公社などが呼びかけている観光地でレジャーを楽しむ事であります「冒険」と「観光」の違いなのです。

とにもかくにもどこかへ出かけるのが第一です。そして知らないどこかで、知らない誰かとほほえみをかわし、自分の足で見知らぬ日本の風景をみてまわううではありませんか。夜は夜で一流ホテルへ泊まるもよし、野宿もよし、夜行列車をベッドがわりにするもよい。私たちはどんな所ででも寝られるのですから自分をためしてみる意味でも、一人旅は意義深いように感じます。

でも常に覚悟しておきたい事が一つあります。それは不慮の事故なのであります。そして、死ぬ事だってないとはいえません。自分の家にいてでもダンプの飛び込んでくる今日に、不慣れな土地での行動はいつも危険がつきまとっていると考えなければなりません。かといって何もしないでじっとこもっていてはなおさら何もできません。どちらかをとるかは自分自身で決める事。

私は本当の旅とは、真のカッコよさを持ち、そして、真に楽しいという事を知ってもらいたいのです。毎日の生活が充実していれば旅なんかに出る必要はないのですたとえどんな理由にしろ自分の住んでいる町を出たくなるというのは、人間が弱いからです。そして

わかりにくい会則

我々阿倍高生は『大阪府立阿倍野高等学校自治会』というものをどれほど知っているのだろうか。自治会選挙の際、立候補者が出ず執行部が成立するかしないかという状態が起こるのはなぜなのかを今一度よく考え直してみる必要があると思う。なぜならそのためにクラブ予算が出ないとか、文化祭が出来ないという問題で一番困るのは、我々阿倍高生自身なのだから……。

それには自治会の活動などの実体を理解する必要がある。つまり自治会会則というものを知らなければならない。そこで生徒手徒にのっている『自治会会則』をみてみよう。この自治会会則を読んでみると、いろいろな矛盾が出てくる。

例えば第7条・第50条・第53条など。最初に第7条で『本会の最高決議機関は議会であって……』とあり第53条で『改正案が議会により承認された時は、会員の3分の2以上の賛成を経て改正が行われる』とある。第7条・第53条だけ読んでみた場合、会員の3分の2以上の賛成を得れば改正は行われると誤解されやすい。しかし、実際は最高拒否権は校長にあるのでもう少しくわしく書いてもよいのではないだろうか。

現在の自治会会則は昭和27年、つまり今から20年前に作成されたものである。現在とは社会情勢も異なり、人間の考え方、ものの見方も変化し、教師と生徒の関係も大いにちがってきているはずである。それなのに20年たった今、当時の自治会会則がそのまま残っているのは少しおかしくはないだろうか。20年という年月は長すぎるもちろんそのまま通用する面もあるが、改正すべき点も大いにあるのではないだろうか。もう一度よく見直してみなければならない。そして我々の自治会会則を作り上げなければならないと思う。三無主義はやめ、自治会を自らすんで理解していこう。

今考えよう制服・頭髪

制服問題

制服についての、校則は、前号でも書いた通りだが、教師の意見は、単に華美なものを避けるというだけではないようだ

第1に、経済的な問題、私服の場合、ふだん着る服で同じスカートやブレザー、ズボンを、三年間も使うことがあるか。そうなると制服は、私服の場合よりずっと経済的であると言える。第2に、阿倍高の制服は、阿倍高生しか着れないという事、ごくありふれた事だが、今実際私達が着ている服は、この学校にはいらなければ着れないし、卒業すれば、二度と着る事もないだろう。そうなると、制服賛成の意見も、筋が通る。だが制服自由化の意見もあるようだ。その意見の第一としては、不潔であるという事。ズボンやブレザー、スカートなどは、連休でもない限り、洗濯はできないし、雨が降ったりしても、ただそのまま乾かして、あくる日また着てくる。実際これは不潔なのではないだろうか。制服賛成意見、廃止の意見は、だいたいこれぐらいだろうと思うのだが この他に女子の中で「制服改革案」が言われている。それは、ブラウスに問題があるようだが、これは、「制服自由化」によって、解消されるのではないだろうか。自由になれば、規定のブラウスを着る必要もなくなるのだし。

ところで、今の阿倍高生の考えは、どうなのだろうか。べつにどうでも良い。制服と決められるなら、着ても良いし、私服になるなら、それでも良い。

他の学校では、「制服自由化」になった所も数少なくない。それは、生徒からの意見により、執行部、または、自治化のために設けられた特別な委員会や機関が、学校側や、父兄の意見をくつがえしたようだ。だが、自治会執行部への立候補者が、すぐに出ないような、今の阿倍高の雰囲気から、「制服の自由化」などは、考えられないことだと思う。「制服自由化が、された方が良いと思いますか」と聞かれた時に、はっきりとした根拠をもって賛否を言える人がいったい何人いるであろうか。どこの高校でも言われている三無主義というものが、「制服に対する無関心」という形になってあらわれているような気がする。

頭髪問題

さて、次に頭髪についてだが、頭髪に対する規制というものは、どの観点から生まれてくるのだろうか。人の見る目は、それぞれによって異なる。まして、教師と生徒の間では、それに対する考えに「世代のずれ」というようなものがあるのではないだろうか。だから、そこに、意見の対立というものが生まれてくるのは、当然ありうることである。たとえば、流行の髪型（男子では長髪のもの、女子ではウルフカットなど）に対してだが、私たちの年代は、それに対して一番興味を感じる年頃である。それなのに教師は、流行の髪型を、高校生らしくないと言って反対する。つまり、男子の場合には、流行の髪型でも、短かくてさっぱりしたものならば、いいと思われている。しかし流行の髪型にはかわりないのである。そこに教師の矛盾した考え方がうかがわれる。その髪型が流行性を失なえばどういうことになるのだろうか。

それから高校生らしさというものも人の主観によってことなる。教師のいわれることはあくまでも外見にすぎない。いいなおせば見た目だけで判断されているのである。しかし、本当の高校生らしさというものは、少なくとも髪型などでは左右されるものではないはずである。だから、高校生らしさという観点から髪型というものを判断することはおかしい。髪型に対する規制というものは、できないのではないだろうか。それは本人の自覚による以外はないものだと思う。

部告

我々新聞部では、部員を募集しています。現在は、二年生五名、一年生四名が中心になって、活動を行なっています。しかし、この人数では十分な活動はできません新聞はだれにでも作れるものですどしどし入部して下さい。

また、我々は、阿倍高生がどのような意見を持っているのかを知りたいのです。そのため、アンケート調査をお願いした際には、できるだけ協力をお願いいたします

さらに、新聞部及び今号についての意見、不満、これからの希望がありましたら、新聞部部員又は南舎二階の新聞部部室まで、来て下さい。

尚、投稿も受け付けています。掲載を希望する記事がありましたら、部員まで連絡して下さい。

× × × × × ×

新設校訪問

モダンな校舎の千里高校

去る六月十七日、新聞部員四名は府立千里高校を訪問した。阪急南千里駅で下車し、歩いて十分程の所にある。駅から学校までは、閑静な住宅街で、元万博会場の太陽の塔を見ることができた。

生徒の大半はこの南千里駅を利用しているが、自転車通学も認められており、その数は三〇%。

千里高校に着いてまず玄関を入って、私達はスリッパにはきかえた。全員上靴制で、生徒は登校すると、ロッカーの設置場で、青い運動靴にはきかえる。

学校の創立は五年前で、創立記念日は五月十五日。

校章の形は、千里高校の「セ」からできたもので、千里丘陵を縁に彩どる竹の葉の形と、竹の弾性とを造形的にとりいれている。

又、教育方針は、

1、真理と正義を愛する人間の育成をめざし清く直く明るい性格の陶冶につとめる。

2、信頼と敬愛の上にたつ人間の育成をめざし、人間のふれあいを通じて情操の陶冶につとめる。

校舎は、五十年前に建った校舎にいる私達には、「学校」と思えないようなモダンで明るい感じである。廊下はもちろんコンクリート製だが、本校の廊下が、木製で歩くと音がすることを言うと、雨の日はすべるという弊害があるため、その点では木製の方がいいという答えが返ってきた。

又、中庭には芝生があり、噴水とベンチがあって、公園のようなムードだ。

このモダンな校舎を万国博を境にして外国人が視察に来るそうだ。

生徒会は、正・副会長、書記会計の他に、風紀、文化、図書運動、保健の各委員会があり、本校の議会にあたるものとして評議会がある。生徒会が運営する行事としては、文化祭、体育祭、水泳祭。本校にないものには、講師を外部から招いて行なう講演会、映画鑑賞会がある。

現在の生徒会は、生徒の四無主義（無気力、無関心、無責任、無感動）をなくすことを目標としている。制服自由化問題は一部でそういう声が出ていたので本格的にアンケートをとった所今のままでいいという人が多く盛り上がった問題ではないということだ。又、生徒に自主的なものがないため、先生と生徒の親密度も一部を除いては、そんなに高くない。

掲示物は生徒会が目を通し、先生はあまりタッチしない。

クラブ活動はほとんどの人が入部していて、盛んである。

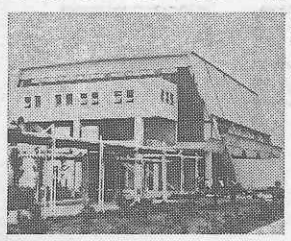
修学旅行は各学年によって異なり、生徒自身が、行先だけでなく、スケジュール等もきめる今年の行先は南九州で、自由時間を多くしたいそうだ。

夏期の学年行事は、一年は臨海、二年は林間、登山。参加、不参加はあくまで自由なので、人数が少ない場合は中止するということだ。

始業時刻は八時四十分。下校時刻は五時十五分で、下校時刻の取り締りは風紀委員がする。

卒業後の進路（進学、就職）は、年によって違う。職員室の前を通りかかると、求人案内がはり出されていた。

雨の降り出した中を、騒音公害もない、学校としては申し分のないような設備の千里高校を後にした。



レッツゴー夏休み

明日から四十日間の長ーい長ーい夏休みの始まり。あの人にも、この人にもたのしい夏休みの計画が待っていることでしょう。でもドッサリコンとある宿題はチョッピリ気になりますネ。八月の末に泣かないように。勉強にあきたら涼しい映画館や、誰も行かないような所へ旅に出てみませんか？

さあさあ新聞部の夏休み特集の始まりだよ。

映画

「華麗なる賭け」ユナイト

S・マックイーンがオモテは洗練された大実業家、ウラは天才的な才能とセンスをもって銀行強盗を働く主人公に扮し、彼には珍しくメランコリックな役にとり組んでいます。共演のフェイ・ダナウェイは、恋人の私立探偵に扮し、M・ルグランの甘く、哀しい「風のささやき」のテーマもこの映画の魅力の一つとなっています。

監督は「屋根の上のバイオリン弾き」のノーマン・ジェイスン

二十二日よりリバイバル上映

「ファンタジア」

W・ディズニーが八よい音楽を大衆に〉という念願をこめて製作したのがこのアニメーションで、「眼で見るシンフォニー」を充分楽しませてくれます。協力は、フィラデルフィア管弦楽団、名指揮者L・ストコフスキー

八月十二日よりリバイバル上映

「クイン・メリー愛と悲しみの生涯」

メリーに「裸足のイサドラ」のV・レッドグレーブ、エリザベス一世に昨年度オスカー女優のグレンダ・ジャクソンが扮し、イギリスの両女優が英国史上の有名な二〇〇日の「アン」のチャールズ・ジャロット、音楽はジョン・バリー

▼映画研究部▲

旅

夏休みといえば、日曜日にできないようなことをするためにあるようなもの。そこで、関西の穴場紹介をします。あんがい掘り出し物があるかも……まあちょっと目を通して下さい。

▼日帰りコース▲

150円でいける大阪

大阪市立電気科学館（天象館）

地下鉄天王寺から御堂筋線大国町で四つ橋線に乗りかえ、四つ橋で降りる。厚生年金会館と同じ方向の改札を出て階段をのぼるとすぐそこに大阪市立電気科学館がある。一階から五階までは電気館、六階は天象館（いわゆるプラネタリウム）八天象館のみ70円・両方で120円〉今回は天象館を紹介することにした。一年生は、今、地学で習っている天文に関係があり何かと興味があるのではないだろうか。場内が暗くなるとまずプラネタリウムの説明がある。そして快い音楽と共にだんだんと日が暮れてくる。あっという間に地上は満天の星だ。45分という短い時間だけれどひとねむりしたような気分になる。今の大阪では公害、公害で星は見えたとしても二つか二つ。しかし、ここは大阪のどまん中とは思えないほど神秘的である。

ここではその日その日の天体の位置や星座の名前や形、天体の軌道などを説明してくれる。夏休みなんかにフラッといってみてはどうだろうか。

尚、時間は次の通り。二、三、四月と七月二十日より八月三十一日まで、及び日曜日、祝日は、十一時、十二時三十分、十四時、十五時三十分。そして右記以外の平日は十三時、十五時。但し月曜日は休館。地下鉄代40円、天象館入場料70円しめて110円也。

津風呂湖　運賃八五〇円

近鉄阿部野橋ー電（特）1時間40分ー大和上市ーバス20分ー津風呂湖

湖の周囲に、家族連れにふさわしいハイキングコースがあり、途中に三つのつり橋があるそうですつり橋なんて、日頃あんまりお目にかからないので、スリルがあっておもしろいと思います。でも、高所恐怖症の人は気をつけた方がいいのでは……。また、湖には、ボートと遊覧船もあり、特にボートはアベックに最適。いない人は遊覧船で、同類でも捜して下さいそれから、つりの好きな人へ。魚は大きくないけど、数がつれるそうです。

▼お泊りコース▲

王滝川上流　運賃二、九五〇円

大阪ー（急）2時間半ー名古屋ー4時間ー上松ー2時間15分ー滝越

ここは、最も木曽らしい所だそうです。上松から、王滝川の一番奥の部落である滝越へ行く列車は午前、午後各二本きり。午前は8時半、午後は3時10分ということなんですが、時間は向こうでもう一度確めた方が無難。この列車もともとヒノキを運ぶためのもので人間は二の次。だから一回百二十人ぐらいしか乗れません。でも土地の人も乗るので多ぜいは無理。もちろん無料。そんな旅も一風変ってておもしろいんでは。料理はあんまり期待しないで下さい。王滝村には旅館が8軒。料金は千円ぐらいから。また滝越部落には2軒。料金は八百円ぐらいから。どちらも観光協会は、長野県西筑摩郡王滝村　王滝村観光協会　TEL王滝1へどうぞ！

十津川　運賃一、五八〇円

大阪天王寺ー1時間半（王寺経由）ー五条ーバス4時間半ー湯泉温泉

バスの所がスリル満点！特にこわい。

狭谷ダムのほとりは、左側が切りたった岩、右側は気の遠くなるような谷底にダム。また、谷瀬には日本一のつり橋があって、長さは二九二メートル。前述の津風呂湖のつり橋よりもっとスリルが味わえるだろう。バスは無事故。安心して風景に見入って下さい。宿泊設備は旅館が2軒、料金は千百円くらいから。観光協会は、奈良県吉野郡十津川村大字平谷　十津川観光協会　TEL平谷79

予約なしでも泊れる温泉

たいしたところではないが、予約しなくても、たいていは泊まれるというアナ場はいかが――。

梅が島温泉ー静岡県安倍郡梅ガ島村。南アルプスのふもと、静岡へそそぐ安倍川の上流にある。マスつりの本場。旅館は2軒まで、七百円～千二百円。大阪から静岡急行4時間50分、一八六〇円。静岡からバス3時間二六〇円。

海潮温泉ー島根県大原郡大東町字海潮。山陰の山の中の湯治場。細い赤川が流れるだけで、周囲は山静かなのはうけあい。旅館3軒で七百円～千円。大阪から松江まで急行7時間45分、松江から出雲大東1時間、大阪から三一〇〇円ぐ

スポット

生徒だけで校内掃除？

現在、教室はもちろんのこと、職員室、準備室、特別教室、廊下階段、及び学校付近の道路と、いたる所が生徒の手で掃除されている。何故生徒が掃除するのかというと、我々の「学習の場」であるからだそうである。しかし、この考えから言うと、我々が掃除しなければならないのは、教室と特別教室ぐらいである。残りの職員室、準備室は、いったい何のために生徒が掃除しなければならないのだろう。普通、一般の会社では、社員が職場の掃除をする。これは「自分たちの職場である」という意識から発しているのではないだろうか。こうして考えてみると、職員室や準備室は、誰の職場であろうか？生徒？　いや先生である。先生自身の職場であり、学習の場であるここで生徒の声を少しとりあげてみよう。

「準備室の掃除をしていると、先生が、いすに座っていて、掃除のじゃまになる時がある。せめて自分のまわりぐらいはきれいにしておいてくれるか、掃除の間はじゃまにならないように少しの間でも外へ出ていてほしい」

また、

「先生の机の上を掃除する時にタバコの吸がらの処理までしなければいけない。これぐらいは自分でやってもらいたい。それから、時々机の上を物でいっぱいにしている先生がいて、机の上を拭こうと思っても拭けないから困る」ということだった。両者とも、掃除をいやがっているわけではないかえって、一生懸命にやろうとしているようすがうかがえる。

まず前者であるが、当然の要望と思う。一般家庭で、お母さんが掃除をされている時、お父さんがドッカリ座りこんでいたら、お母さんに「掃除をするから、ちょっととどこへ行ってて下さい」と言われるのと同じだと思う。掃除している時、人にいられては、はかどらないことぐらい常識で判断してもらいたい。

次に後者であるが、これも当然だ。吸がらなどは、確実に先生が出したゴミである。自分が出したとわかっているゴミくらいは自分で処理してもらいたい。他人の吸がらを処理するということは、何か、不潔感のようなものを与えるらしい。それに、吸がらから、生徒のタバコというものに対する興味をそそる結果に至るのではないだろうか。その点もよく考えてもらいたい。

よく先生は、「廊下でゴミを見つけたら、拾ってゴミ箱に捨てなさい」と言われる。しかし、先生も、それを行なっているのだろうか。我々が見おとしているのかもしれないが、そのような姿をあまり見たことはない。そして我々も実際行なっていない。結局、お互いに悪循環しているのではないだろうか。お互いに力を合わせてこそ、掃除の行き届いた学校になるのではないだろうか。最後に、今まで、先生に対する掃除の不満ばかりを述べてきたが我々生徒も反省する必要がある。現在、我々に与えられている分担区域を確実に清掃しているクラスはいったいどれぐらいあるだろうか。この状態では、先生に反省を求めることはできないと思う。我々が、今、その責任を果してこそ堂々と意見が言えるのではないだろうか。この間から、南舎の保健室の横の掲示板に、清掃のクラス別成績が掲示されているが、これが各クラスにどのような反響をおよぼしているのだろうか。保健委員の苦労の割に、反響はないように思うのだが……。

す結局先生も生徒も、「学校の掃除における自分の役割」をもっと自覚すべきではないだろうか。

編輯後記

三面の特集「高校生活の意義」はアンケートをもとにとりあげましたが、強制的でないと記したためか、クラスによって回収率の高低が著しく、違いました。

四面で、気付かれたと思いますが、先号の「百円で行ける大阪」を「百五十円で行ける大阪」にかえました。かえざるを得なかったというべきでしょうか。今号の場合は、交通費だけでなく入場料が必要なので、高くついたためですせっかく「百円で行ける大阪」で始めたのですから、そうそうかえたくはなかったのですが…。

なお、明日から夏休みですが、夏休み中も七月下旬は活動をしていますから、新聞に対する意見希望があれば、部室に来てください。アイロニーは、美術部の提供です。

――訂正――

一六九号の大学別合格者人数の記事で大阪教育大（二）は（十二）の誤まりです。

クラブ戦歴

▼剣道部

インター杯予選

男子団体

一回戦

不戦勝

二回戦

阿倍野（負）ー大手前

女子団体

一回戦

阿倍野（負）ー東淀川

▼サッカー部

阿倍野1ー0生野

阿倍野0ー3三国ケ丘

阿倍野3ー1今宮

阿倍野4ー0阪南

阿倍野0ー3藤井寺工

阿倍野2ー3住吉

阿倍野3ー1住吉

▼柔道部

鈴木（阿倍野）負ーおさえこみー勝（住吉）

和田（阿倍野）勝ー背おいなげー負（住吉）

川辺（阿倍野）勝ー体おとしー負（住吉）

清川（阿倍野）勝ー大そとがり・おさえこみー負（住吉）

佐野（阿倍野）負ー背おいなげー勝（住吉）

井川（阿倍野）負ーおさえこみー勝（住吉）

九鬼（阿倍野）負ーこうちがりー勝（住吉）

▼女子バスケット部

春季公式戦

一回戦

阿倍野39ー71勝山

▼卓球部

大阪高校卓球選手権

女子ダブルス二回戦出場

大阪高校卓球選手権

女子シングルス四回戦出場

阿倍野4ー3住吉

阿倍野3ー4天王寺

▼男子バスケット部

一回戦

阿倍野67ー47景陽

二回戦

阿倍野77ー68堺市立商

三回戦

阿倍野54ー55四条畷

▼陸上部

近畿大会

800m走　大阪府下四位

安藤嘉美（三ノ七）

棒高飛び　第4B、四位

清水一広（二ノ五）

▼野球部

阿倍野3ー4東住吉工

阿倍野2ー4河南

阿倍野3ー9今宮工

阿倍野2ー4住吉

春季大会

一回戦

阿倍野5ー4工芸

二回戦

阿倍野0ー5藤井寺工

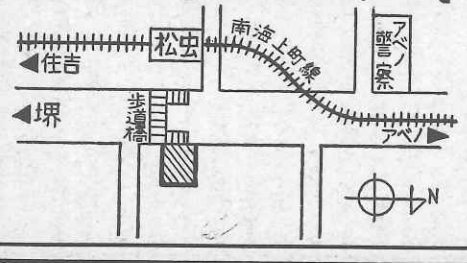
▼放送部

NHK全国高校放送コンクール大阪府大会

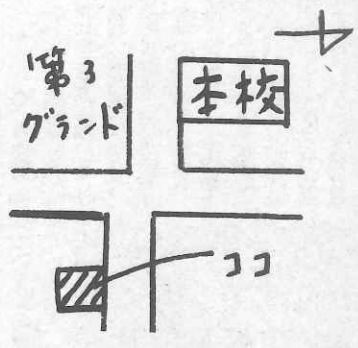
ラジオ制作部門テーマ

①「私達の学園生活から」第二位

②「現代に生きる」第四位

★山・スキー・各種スポーツ・服装・カップ・トロフィー★
各大・高・中学校指定　大阪府職員互助会指定
専門店
大阪スポーツ


阿倍野区王子町1丁目4―18
―TEL（622）4351―

安くておいしい
たこつぼ
クーラーも
きいてます


※夏休みアルバイト募集中